

令和4年3月23日

八百津町教育委員会
教育長 社本 勝義 様

八百津町小中学校の今後の在り方検討委員会
委員長 原 尚

八百津町小中学校の今後の在り方について（答申）

令和3年6月30日に八百津町教育委員会教育長より諮問を受けた「八百津町学校施設長寿命化計画に基づく学校施設の見直し及び子どもたちのより良い教育環境」について、本検討委員会にて5回にわたって検討を重ねてまいりました。

検討にあたっては、「学校の規模及び配置の適正化に関する基本的な考え方」、「適正化に向けた具体的な方策」について協議を行い、この度意見を取りまとめましたので、別紙「八百津町小中学校の今後の在り方について【答申書】」のとおり答申します。

八百津町小中学校の今後の在り方について

【 答 申 書 】

令和4年3月

八百津町小中学校の今後の在り方検討委員会

1 児童生徒数の推移

八百津町の児童生徒数は、令和3年度現在、小学校440人、中学校232人となっています。今後減少が進み、小学校は令和9年度においては319人、中学校においては令和15年度で120人となることが予測されます。

(小学校)

学校\学年	令和3年度							令和9年度						
	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	4	5	6	計
八百津小	19	16	21	21	24	25	126	6	9	12	18	20	22	87
和知小	26	12	25	24	20	29	136	15	20	14	21	32	28	130
錦津小	22	22	21	15	23	18	121	8	8	14	9	19	10	68
久田見小	8	6	11	7	6	5	43	3	2	5	7	5	5	27
潮見小	0	3	3	2	2	4	14	2	1	1	1	2	0	7
小学校計	75	59	81	69	75	81	440	34	40	46	56	78	65	319

(中学校)

学校\学年	令和3年度				令和9年度				令和15年度			
	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計
八百津中	59	70	82	211	67	50	67	184	29	37	40	106
東部中	8	4	9	21	8	9	14	31	5	3	6	14
中学校計	67	74	91	232	75	59	81	215	34	40	46	120

(令和3年4月1日現在 八百津町教育委員会調査)

2 学校規模適正化の必要性

八百津町においては令和3年度現在、久田見小学校と潮見小学校で複式学級が編成されています。その他の小学校においては全て1学年1クラスの状況となっています。今後の児童生徒数の推移(上記表)からは、令和10年度には八百津小学校においても2・3年生(令和9年度の1年生・2年生)で複式学級となり、町内小学校5校中、3つの小学校で複式学級が編成されることとなります。中学校においても、令和15年度には八百津中学校も全ての学年が1クラスになります。

こうした状況の中、今後の小中学校の在り方を考えるにあたっては、小規模校のメリット、デメリットを見極めつつ、何よりも「将来を担う子どもたちに適正な教育を行う環境の整備」という視点で検討を行う必要があると考えます。

小規模校では、以下のようなメリットがあると考えます。

- ・ 一人一人の学習状況を把握しやすく、きめ細かな指導が行いやすい。
- ・ 家庭的な雰囲気の中で教師と児童生徒が過ごせる。
- ・ 異年齢の活動が組みやすい。
- ・ 地域の協力が得られやすく、地元の教育資源を活かした教育活動が展開しやすい。
- ・ 児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境が把握しやすい。

しかし、その一方で以下のようなデメリットが考えられます。

- ・ クラス替えができない。(せまい人間関係が続く、リーダーや役割の固定化)
- ・ クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。
- ・ 部活動の種類が限定される。
- ・ 男女比の偏りが生じやすい。
- ・ 中学校において、全教科にその教科専門の教諭を配置できない。
- ・ 体育での球技や音楽での合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
- ・ 班活動やグループ分けに制約が生じる。
- ・ 児童生徒から多様な見方や考え方を引き出しにくいいため、授業展開に制約が生じる。
- ・ 教員と児童生徒の心理的な距離が近くなりすぎる。

以上のことを熟慮した結果、本検討委員会としては、変化が激しく予測困難な時代を生き抜いていく子どもたちへの適正な教育環境を整備していくにあたっては、「ある程度の学校規模において教育活動を行っていく」ことが必要であると考えます。

3 適正化の基本的な方針

(1) 学校の統合について

「将来的に1小学校1中学校への統合」を目指して検討をしていただきたい。ただし、その過程においては統合を段階的に行うなど現在や今後の各学校の個別の状況を鑑みた対応をしていただきたい。

(2) 具体的な方策について

- ・ 魅力ある教育環境の整備を検討すること。(木造校舎、自然に囲まれた環境、ICTの積極的な活用、地域との深いつながり、ジェンダーフリー、小中一貫校など)
- ・ スクールバス等通学方法の整備を行うこと。
- ・ 廃校となった学校の活用方法を地域活性化の観点からも検討すること。
- ・ 統合後も児童生徒が地域の行事に参加するなど地域とのつながりを深めること。
- ・ 幅広く意見を求めること。

※より具体的な内容については本検討委員会の議事録を参照いただきたい。

4 終わりに

次世代を担う子どもたちのことを第一に考えれば、「将来的には1小学校1中学校とすることが適切である。」と考えます。しかしながら、統合に向けては財政的課題、統合場所、学校が無くなることに対する地域振興策等々様々な課題があり、これらの課題は町当局においては教育委員会のみならず他課との連携協議が必要な課題であるとともに町全体で考えていかなければならない課題であると考えます。

したがって、今後の統合に向けた取組の過程においては、小中学校の保護者、就学前の子を持つ保護者、地域住民、児童生徒・教職員及び有識者の意見等を積極的に聴取していただく機会を設けていただくことを切に願いつつ、本検討委員会の答申とさせていただきます。

八百津町小中学校の今後の在り方検討委員会名簿

(敬称略)

	委員の区分	役 職	氏 名	備考
1	小中学校長	町小中校長会長	日比野 良明	オブザーバー
2		町小中学校副会長	佐藤 亜紀	オブザーバー
3		町小中学校教研会長	渡辺 隆正	オブザーバー
4	小中学校 保護者代表	八百津小学校 PTA	田中 彰	
5		和知小学校 PTA	後藤 敏也	
6		錦津小学校 PTA	遠藤 寿紀	
7		久田見小学校 PTA	大脇 晃司	
8		潮見小学校 PTA	柘植 竜平	
9		八百津中学校 PTA	徳永 豊	
10		八百津東部中学校 PTA	後藤 慎也	
11	学識経験者	岐阜大学 特任教授	原 尚	委員長
12		可茂教育事務所教育支援課長	堀部 昇	
13		八百津高校校長	亀谷 信幸	
14		県事務所青少年育成専門職	古田 哲也	
15		加茂郡教育研究所所長	安江 茂和	副委員長

16	地域代表	八百津地区	古田 八郎	
17		和知地区	林 膨彦	
18		錦津地区	永田 勝造	
19		久田見地区	林 和伸	
20		福地地区	瀨瀬 眞道	
21		潮南地区	田口 博	
22	保育園 保護者代表	八百津保育園保護者会	森栗 嘉一	
23		和知保育園保護者会	伊藤 慎二	
24		錦津保育園保護者会	市岡 良介	
25		久田見保育園保護者会	武市 祐貴	

八百津町小中学校の今後の在り方検討委員会の開催状況

会 議	開催日時	主 な 内 容
第 1 回	令和 3 年 6 月 30 日 (水)	・ 小中学校の状況について ・ 小中学校の適正規模について
第 2 回	令和 3 年 10 月 13 日 (水)	・ 複式学級について ・ 意見交換
第 3 回	令和 3 年 11 月 18 日 (木)	・ 学校の統合をめぐる全国の状況について ・ 意見交換
第 4 回	令和 3 年 12 月 23 日 (木)	・ 統合の事例について ・ 小中一貫校について ・ 意見交換
第 5 回	令和 4 年 3 月 23 日 (水)	・ 答申書 (案) について ・ 意見交換